

講義名	(対面)中国語B(グローバル)【GSP生用】		
科目区分	グローバル		
担当教員	関 梅		
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 5時限	授業形態	
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

<b>主題と概要</b>			
<p>当授業はグローバル・スタディーズ・プログラム(GSP)学生を対象とした「中国語B」である。「読む・書く・話す・聞く」の4技能をバランスよく学び、中国語の基礎を身につけることを目的とする。毎回、授業では着実に中国語を身につけるためのトレーニングをたくさん行う。中国語の音にひたり、中国語を身体で覚えてほしい。またGSP学生諸君には中国語検定4級合格を目指すという大きな目標もあるため、ややハードな授業になることが予想されるが、ねばり強く取り組んでほしい。</p> <p>授業は「中国語A」(グローバル)と同一教材を用いてリレーで進めていく。1回欠席をすると、それ以降の学習に支障をきたす恐れがあるので十分注意してほしい。</p>			

<b>到達目標</b>			
中国語検定準4級に合格できる			
4技能に関する到達目標			
<p>聞く：平易な日常会話の内容を聞いて分かる          話す：自己紹介ができ、短い文の質問と答えができる          読む：100字以内の平易な内容の中国語を理解することができる。          書く：基本文型を応用して、簡単な自己紹介文を書くことができる。</p>			

<b>提出課題</b>			
毎回の授業では、トレーニングの状況を確認するため、トレーニングのプリントの提出をしてもらい、次回にフィードバックを行う。また、毎週宿題のプリントも配布する。			

<b>課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック</b>			
前回の提出物の結果を講評し、習得できなかった文法項目などを復習をする。また、単語テストの結果により再テストも行う。			

<b>評価の基準</b>			
平常点(出席、課題の提出、小テスト(対面授業の場合)中間テスト、期末テスト)			
評価の基準について、教室で詳しい説明を行う。			

<b>履修にあたっての注意・助言他</b>			
<p>外国語の授業は実践的なものであるため、声を出すことをいとわず、活発な取り組みを期待します。授業中の積極的態度は大いに評価します。逆に次のような受講者は出席とはみなしません。</p> <p>教科書を持って来ない者          授業中の居眠り、携帯電話を操作している者など          また、GSPクラスでは宿題の提出状況も評価の対象となりますので注意してほしい。</p>			

<b>教科書</b>			
.発音重視!中国語初級マスター22.	阿部慎太郎・紅粉芳恵・関梅	金星堂	2500

<b>プリント資料及び参考文献</b>			

<b>授業計画</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>発音編 2日目</li> <li>発音編 4日目</li> <li>第1課「自己紹介をする」会話文・今日のまとめ</li> <li>第2課「行き先を聞く」会話文・今日のまとめ</li> <li>第3課「雑談をする」会話文・今日のまとめ</li> <li>第4課「家族構成を聞く」会話文・今日のまとめ</li> <li>第5課「スケジュールを聞く」会話文・今日のまとめ</li> <li>中間まとめ・中検準4級模擬試験</li> <li>第6課「待合せをする」会話文・今日のまとめ</li> <li>第7課「構内会を頼む」会話文・今日のまとめ</li> <li>第8課「SNSで連絡を取る」会話文・今日のまとめ</li> <li>第9課「道案内をする」会話文・今日のまとめ</li> <li>第10課「待ち時間を伝える」会話文・今日のまとめ</li> <li>第11課「趣味の話をする」会話文・今日のまとめ</li> <li>総まとめ</li> </ol>			

<b>授業形態(アクティブ・ラーニング)</b>			
ア	PBL(課題解決型学習)		
イ	反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
ウ	ディスカッション、ディベート		
エ	グループワーク		
オ	プレゼンテーション		
カ	実習、フィールドワーク		

<b>準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間</b>			
<p>語学の習得は授業外での努力は欠かせないため、毎回の授業の後に、復習、予習課題がある。そのため勉強時間も確保しなければならない。</p> <p>継続的に練習するのに、毎日の学習時間は1時間以上が必要。</p>			

<b>双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述</b>			
<p>本講義では基本的にICT活用をして授業を進めていく。具体的には、教室に備えているBigpadを使用し、音声はiPadとコードレススピーカーを使用する；文法説明や課題の答え合わせなどについてはすべてBigpadで行う。また、Quizlet、KahootもBigpadを利用する。</p>			

<b>実務経験の有無及び活用</b>			
<b>備考</b>			
学習者の習得状況により授業の進度の調整を行う。			